



とじょうろ とるい 登城路と土塁の調査を行いました!!

仙台市教育委員会文化財課 令和元年10月14日(月)

調査概要

遺跡名	国史跡仙台城跡(登城路跡・三の丸土塁)	所在地	仙台市青葉区川内地区内
調査原因	国庫補助による遺構確認調査	調査面積	登城路跡 約20㎡ 土塁 1区:約31㎡ 2区:約17㎡
調査主体	仙台市教育委員会(担当:文化財課)	調査期間	令和元年7月~10月末日(予定)

仙台城跡の整備に向けて、7月から巽門跡周辺の登城路跡と三の丸土塁で発掘調査を実施しています。登城路跡の調査は今回が3回目で、これまでに清水門から本丸詰門へ向かう登城路周辺の発掘調査や石垣の測量を行ってきました。今回の調査は、巽門跡周辺における登城路の位置と遺構の確認を目的に、特に、巽門跡西側の石垣が本来の登城路に沿ってどのように延びているのかを明らかにするために行いました。土塁の調査は、これまで三の丸東側の土塁を中心に行い、今回で5回目になります。今回の調査は江戸時代の土塁形状と塀などの痕跡を確認するため、三の丸東側土塁に2か所の調査区を設定しました。特に、三の丸東側土塁の北端の調査区は、絵図で土塀の表現が見られる場所です。



図1 仙台城跡空撮写真 (東から撮影)

登城路跡の調査成果

今回の調査では、巽門跡西側石垣の延長線上で、埋没していた石垣を確認しました。石垣は全長約4m、高さ約0.6mで、方向は北に延びたのち北西に向かって屈曲します。北に延びる石垣は、ほとんど加工しない石材が使われ、北西に延びる石垣は、川原石を割った石材が使われます。

石垣は、巽門跡西側に隣接する石垣の延長線上にありますが、延びる方向をよく観察すると軸線が若干ずれています。さらに、石垣が造られた年代は、19世紀以降の遺物を含む整地土の上に造られているので、江戸時代後半以降です。これらのことから、見つかった石垣は、巽門跡西側石垣を修復したか、その石垣の外側に付け足された石垣と考えられます。

また、調査では熱で変形したガラスが多く出土しました。出土したガラスは、ほとんどがビール瓶や一升瓶で、周辺に捨てられていたものが、巽門が焼失した1945年の仙台空襲で溶けた可能性があります。変形したガラスは調査区の表層に厚く堆積する層から出土したので、戦後に調査区周辺で大規模な造成が行われた可能性があります。



写真1 調査区東側の様子(北東から)

北西に延びる石垣の前面には、平行する石列が検出された。



写真2 調査区全景(西から)

調査区東端ではコンクリートの基礎が検出された。



写真3 北に延びる石垣の様子(東から)

石垣の下は円礫と盛土で固められ、その上に石材を置いている。



写真4 北西に延びる石垣の様子(東から)

石垣の石材は大きさが揃えられ、背面には大きな石材が埋められている。

三の丸土塁の調査成果

今回の調査で、三の丸東側土塁の北側に設定した1区では、今のところ遺構は検出されていません。土塁が西に屈曲する北端部分に設定した2区については、土塀などの痕跡は確認できませんでしたが、土塁の上面から川原石が集められた遺構(集石)が見つかりました。さらに、調査区東側で、明治時代以降の植栽や風倒木の可能性があるいくつかの痕跡を確認しました。

これまでの調査で、三の丸跡東側の土塁上からは、江戸時代と考えられる土塀などの明確な痕跡は見つかりません。今回の調査でも土塀などの痕跡が見つからないことから、仙台城が廃城となった頃には、土塀などの構築物が残されていなかったことが、調査により明確になってきました。

また、2区の場所は、江戸時代の絵図で土塀の表現は見られる場所ですが、調査で土塀の痕跡が見つからないことは、三の丸東側の土塁が江戸時代に何度も修理(表1)される中で撤去された可能性を示していると考えられます。



写真5 三の丸土塁2区の様子(東から)
写真手前側は、明治時代以降の掘削でいくつも穴が開き、盛土の上面がでこぼこしている。



写真6 2区で見つかった集石(北から)
集石は少なくとも3.0×2.0mの範囲に広がっていることがわかりました。

表1 三の丸(東丸)被災・修復履歴

年	月	内容	原因	参考資料
天和1	1681	11 (前略)東丸西之方土手崩候付而土手下土留石垣仕、土手築直之事、(中略)東丸東之土手崩候所并孕候所三ヶ所、築直事、巽之門東脇土手下土留石垣壹ヶ所、崩候石垣窠候所、折廻共築直之事、(後略)		老中奉書写
元禄7	1694	11 (前略)東丸巽之門右脇石垣、子之門両脇石垣、崩候付築直事、沢曲輪清水門右脇石垣落候所繕之事、(後略)		老中奉書写
宝永4	1710	9 (前略)一、子之門東脇土手貳ヶ所、連々崩申候、(後略)		治家記録
		(前略)子之門東脇土手貳ヶ所、(後略)		老中奉書写
享保2	1717	9 (前略)東之丸南之方土手貳箇所、同所子門東脇土手三箇所、(後略)	地震・大雨	仙台城修復窺絵図 老中奉書写
享保6	1721	7 (前略)一、東丸西土手一箇所、高十二間壹尺、幅三間半ヨリ五間半迄走申候、一、同所東土手三箇所、内一箇所、高二間、幅三間走申候、一箇所、高三間、幅五間走申候、一箇所、高六間、幅十七間走申候、(後略)	大雨	治家記録
		11 (前略)一、同所東丸土手五拾八坪崩申候、一、同所東丸土手五百拾坪余崩申候、一、同所子門東脇土手三ヶ所二面、百拾坪余崩申候、(後略)	大雨	仙台城修復窺絵図
元文1	1736	5 (前略)一、東丸子門東之方土手下石垣一箇所、七坪程崩孕、一、巽門外南之方川端石垣一箇所、一坪程孕窠、(後略)	地震	仙台城普請奉窺御絵図 治家記録

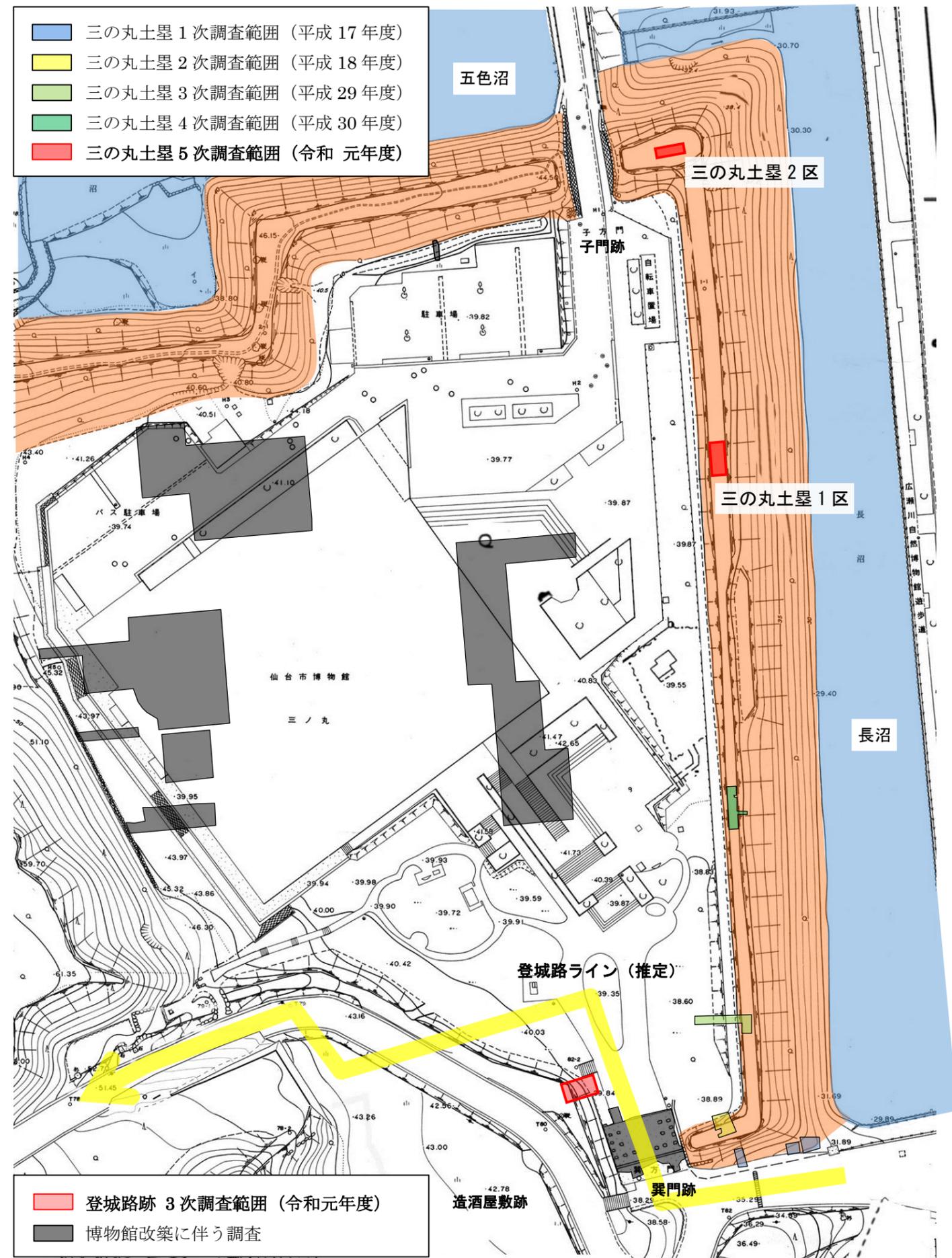


図2 三の丸跡調査区配置図(1/1,000)